



2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月9日

上場会社名 愛眼株式会社

上場取引所 東

コード番号 9854 URL <https://www.aigan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々 昌俊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐々 雅彦

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 2023年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	7,664	6.8	16		49		15	
2023年3月期第2四半期	7,177	7.3	269		209		388	

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 58百万円 (%) 2023年3月期第2四半期 390百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	0.80	
2023年3月期第2四半期	20.02	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	14,261	12,203	85.6
2023年3月期	13,991	12,144	86.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 12,203百万円 2023年3月期 12,144百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,363	8.2	151		206		97		4.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	21,076,154 株	2023年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,668,715 株	2023年3月期	1,668,590 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	19,407,536 株	2023年3月期2Q	19,407,662 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が撤廃され、感染症法上の分類が季節性インフルエンザと同じ5類感染症に変更されるなど、アフターコロナへの移行が進む中で、社会経済活動の正常化が一段と進展しました。一方、ロシア・ウクライナ情勢の長期化に加えて、エネルギー価格や原材料価格の高騰、円安を背景とした諸物価の上昇が、消費者マインドを低下させ消費行動にネガティブな影響を与える懸念があるなど、景気の先行きは依然として不透明で、引き続き厳しい経営環境にあります。

このような状況のもと、当社グループは、「お客様の暮らしを、より快適に、より豊かにする企業となることを目指し、安心の技術、納得の商品、気持ちに寄り添うサービスを提供します。」を経営方針として掲げ、「目と耳の健康を守る」ことを社会的な使命と責任と捉え、顧客体験価値の最大化を追求するとともに、アフターコロナの環境下での事業展開を見据えた取り組みを進めております。また、組織及び人材面では、ニューノーマルな生活様式の浸透に応じた業務の効率化並びに働き方改革や女性活躍推進などに取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の撤廃や5類感染症への変更に伴い、これまでコロナ禍で影響を受けてきた店舗での対面型販売は回復傾向にあり、売上高は7,664百万円（前年同四半期比6.8%増）と前年同四半期比では増収となったものの、大型商業施設内の店舗を中心に客足の回復がまだ鈍く、コロナ禍以前の売上水準に完全には戻っておりません。売上総利益率は、商品仕入コストの上昇、セール等の販売戦略や品目別売上構成比の変化などの影響により1.9ポイント減少しました。経費面では、主に人件費等の運営コストの上昇があったものの、広告宣伝費や支払手数料、改装費用の圧縮など経費コントロールの徹底に努めた結果、販売費及び一般管理費は5,190百万円（前年同四半期比1.8%減）となり、売上高に対する販管費の割合は減少しました。

この結果、営業利益は16百万円（前年同四半期は営業損失269百万円）、経常利益は49百万円（前年同四半期は経常損失209百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は15百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失388百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として長年培ってきた安心で快適な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の強化に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応し、お客様視点を第一とする商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図ってまいりました。同時に、顧客体験を軸としたお客様に選ばれる「愛眼ブランド」の競争優位性を確保するため、ラジオCM、新聞折り込みチラシやDM、雑誌や動画、WEB広告やSNSなど幅広いメディアを活用した複合的な情報発信の強化や店舗特性に合わせたマーケティング施策の強化を通じて、「愛眼ブランド」の認知度向上に努めてまいりました。店舗におきましては、タブレット端末の活用などDX推進により店舗オペレーションの効率性を高め、お客様に対する接客・サービスをさらに充実させております。また、アフターコロナへの対応として、通販事業を見直し、お客様の利便性や新しい生活様式に合致した形態によって、実店舗との連携を深めたネット通販事業の強化に取り組んでおります。

人材教育面につきましては、視力・聴力補正技術、商品提案、接客・サービスに関する従来からの従業員向け教育指導に加えて、既に取得済みの「認定眼鏡士」資格から、昨年新設された国家技能検定制度の「眼鏡作製技能士」への切り替えを順次進めております。

売上高につきましては、社会経済活動の制限撤廃に伴い客足が戻り、感染状況に左右されないアフターコロナへの移行が進む中、全体では前年同四半期比で増収となりました。主力品目のメガネは、前年同四半期比で若干の増収を維持し堅調に推移しつつも、コロナ禍以前の売上水準に完全には戻っておりません。準主力品目の補聴器及びサングラスは、行動制限が撤廃され人流が回復したことによって前年同四半期比では大幅な増収となっております。

店舗につきましては、1店舗を閉店し、既存店の活性化を目的とした改装を5店舗で実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は7,455百万円（前年同四半期比7.6%増）、セグメント利益は55百万円（前年同四半期はセグメント損失220百万円）となりました。

〔眼鏡卸売事業〕

眼鏡卸売事業につきましては、得意先に対する新商品の投入や販売支援に努めるとともに、新規取引先の開拓に取り組んでおります。

この結果、売上高は204百万円（前年同四半期比0.3%増）となり、セグメント損失は8百万円（前年同四半期はセグメント損失5百万円）となりました。

〔海外眼鏡販売事業〕

当社連結子会社である北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の取締役会の決議に基づき、現在、現地の法令等に従い、解散及び清算へ向けた諸手続きを進めております。なお、最終の清算終了日は、未定であります。

この結果、売上高は5百万円（前年同四半期比89.0%減）、セグメント損失は20百万円（前年同四半期はセグメント損失23百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は14,261百万円（前連結会計年度末比1.9%増）となりました。流動資産は、売掛金の増加、商品及び製品の増加、現金及び預金の減少、その他に含まれる敷金及び保証金の減少等により7,588百万円（前連結会計年度末比2.2%増）となり、固定資産は、投資有価証券の増加等により6,673百万円（前連結会計年度末比1.6%増）となりました。また、負債合計は、支払手形及び買掛金の増加、賞与引当金の増加、流動負債その他に含まれる預り金の増加、固定負債その他に含まれる長期未払金の減少等により2,058百万円（前連結会計年度末比11.4%増）となり、純資産合計は12,203百万円（前連結会計年度末比0.5%増）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は前連結会計年度末に比べ37百万円減少し、2,066百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動におけるキャッシュ・フローは12百万円（前年同四半期は83百万円）となりました。

この現況に至った主な要因は、税金等調整前四半期純利益38百万円、減価償却費92百万円、賞与引当金の増加額130百万円、仕入債務の増加額113百万円、売上債権の増加額△39百万円、棚卸資産の増加額△245百万円、法人税等の支払額△91百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動におけるキャッシュ・フローは△53百万円（前年同四半期は△253百万円）となりました。

この現況に至った主な要因は、有形固定資産の取得による支出△136百万円、敷金及び保証金の回収による収入73百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは△0百万円（前年同四半期は△0百万円）となりました。

この現況に至った主な要因は、自己株式の取得による支出△0百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月11日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては2023年11月6日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,622	4,576
受取手形	8	8
売掛金	739	778
商品及び製品	1,781	2,026
原材料及び貯蔵品	17	18
その他	256	181
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	7,424	7,588
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,001	999
土地	1,799	1,799
その他（純額）	173	187
有形固定資産合計	2,974	2,987
無形固定資産		
ソフトウェア	25	20
その他	4	—
無形固定資産合計	29	20
投資その他の資産		
投資有価証券	522	625
敷金及び保証金	2,688	2,707
その他	353	332
投資その他の資産合計	3,563	3,665
固定資産合計	6,567	6,673
資産合計	13,991	14,261

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	366	479
未払法人税等	155	124
契約負債	290	277
賞与引当金	—	130
その他	507	560
流動負債合計	1,318	1,573
固定負債		
繰延税金負債	51	77
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	319	320
リース債務	3	4
その他	147	76
固定負債合計	528	485
負債合計	1,846	2,058
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	3,072	3,057
自己株式	△1,051	△1,051
株主資本合計	14,462	14,446
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	121	192
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	32	35
その他の包括利益累計額合計	△2,317	△2,243
純資産合計	12,144	12,203
負債純資産合計	13,991	14,261

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	7,177	7,664
売上原価	2,162	2,458
売上総利益	5,014	5,206
販売費及び一般管理費	5,284	5,190
営業利益又は営業損失(△)	△269	16
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	5	6
保険配当金	11	11
受取家賃	21	23
システム導入負担金収入	9	—
その他	34	11
営業外収益合計	83	53
営業外費用		
固定資産除却損	7	2
賃貸費用	15	13
その他	0	3
営業外費用合計	23	19
経常利益又は経常損失(△)	△209	49
特別損失		
減損損失	134	11
特別損失合計	134	11
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△343	38
法人税、住民税及び事業税	45	55
法人税等調整額	△0	△2
法人税等合計	45	53
四半期純損失(△)	△388	△15
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△388	△15

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△388	△15
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	70
為替換算調整勘定	3	3
その他の包括利益合計	△1	73
四半期包括利益	△390	58
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△390	58
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△343	38
減価償却費	119	92
減損損失	134	11
賞与引当金の増減額(△は減少)	130	130
固定資産売却損益(△は益)	△0	△0
売上債権の増減額(△は増加)	41	△39
棚卸資産の増減額(△は増加)	18	△245
仕入債務の増減額(△は減少)	42	113
その他	24	△5
小計	167	94
利息及び配当金の受取額	6	7
法人税等の支払額	△92	△91
法人税等の還付額	1	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	83	12
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
定期預金の払戻による収入	9	9
有形固定資産の取得による支出	△155	△136
有形固定資産の売却による収入	0	0
投資有価証券の取得による支出	△103	△3
敷金及び保証金の回収による収入	19	73
その他	△23	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△253	△53
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△0	△0
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	3
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△168	△37
現金及び現金同等物の期首残高	2,219	2,103
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,050	2,066

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	6,927	204	46	7,177	—	7,177
外部顧客への売上高	6,927	204	46	7,177	—	7,177
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	31	—	31	△31	—
計	6,927	235	46	7,209	△31	7,177
セグメント損失(△)	△220	△5	△23	△250	△19	△269

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△24百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	93	—	—	40	134

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売 (注) 3			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	7,455	204	5	7,664	—	7,664
外部顧客への売上高	7,455	204	5	7,664	—	7,664
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	32	—	32	△32	—
計	7,455	237	5	7,697	△32	7,664
セグメント利益又は損失(△)	55	△8	△20	27	△10	16

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△16百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. なお、「海外眼鏡販売」セグメントである北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の当社取締役会の決議に基づき、現在解散及び清算へ向けた諸手続中であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	11	—	—	—	11